

特集

質的研究成果の 実装と査読の役割

看護学における質的研究の現在：

QUARIN-J セミナーより

本誌では2009年、萱間真美先生(国立看護大学校長)を中心とする先生方による質的研究の取り組みの成果を、特集「質的研究方法を用いた看護学の学位論文評価基準の作成」(42巻5号)にて紹介いただきました。以来、2013年の「質的研究方法を用いた博士論文作成指導の技法」(46巻4号)など、研究の進展に伴って特集を企画いただきました。この一連の研究が、「質的研究論文の教育資源提供ネットワークQUARIN-Jの開発」*をもって、1つの節目を迎えます。

そこで本号では、本研究の一環として行われたセミナー「看護学における質的研究論文の現在：研究成果の社会実装と査読の役割」の内容をご紹介します。萱間先生をはじめ、長きにわたり質的研究の進展を牽引してきた先生方が、実装と査読を軸に質的研究の展望を探ります。質的研究の現在地はいまどこにあるのか、これからどうあるべきなのか、そしてどこに向かうのか——その未来を見据えていきます。

『看護研究』編集室

企画：萱間真美(国立看護大学校長)

*基盤研究(B) 質的研究論文の教育資源提供ネットワークQUARIN-Jの開発

研究代表者：萱間真美(国立看護大学)

研究分担者：西村ユミ(東京都立大学大学院)、木下康仁(聖路加国際大学大学院)、

グレッグ美鈴(名桜大学大学院)、三浦友理子(聖路加国際大学大学院)、

小山田恭子(聖路加国際大学大学院)、麻原きよみ(聖路加国際大学大学院)、

山本則子(東京大学大学院)

*所属は研究実施時